

飛鳥資料館夏期企画展のご紹介

「飛鳥 古寺巡礼」

平成20年8月1日（金）～8月31日（日）

（月曜日は休館、8月15日（金）は無料開館日）

今夏、当館では、飛鳥の古寺の「いま」を撮影した美しい写真と、発掘調査の成果をとおして古寺巡礼をお楽しみいただく展示を開催します。

現在、飛鳥には京都や奈良のような巨大な堂塔が建ち並ぶ大寺院はみられません。かつてこの地に建てられた寺々は、壮麗な伽藍を地中に秘めつつ、四季折々の景色のうつろいととも、私たちに往時の歴史を偲ばせます。

飛鳥の地は、日本で最初に仏教が公式に伝えられ、花開いた場所です。崇峻元年（588）に飛鳥寺が建立され、その後も皇族や有力な豪族による寺院の造営が相次ぎました。『日本書紀』によれば、680年には京内に24の寺があったといいます。堅牢な瓦葺の屋根、高くそびえる塔、青丹に彩られた堂…最先端の建築様式による壮麗な伽藍が、飛鳥に建ち並んでいたのです。

都が飛鳥の地を離れた後も、寺々は法灯を守り伝えました。しかし、天災や争乱などでかつての壮麗な伽藍は失われて、地中に埋もれていきました。これらの寺院跡では、昭和31年の飛鳥寺の発掘以降、現在も発掘調査が続けられています。このような、地道な調査の結果、伽藍配置や建築技術、寺宝の数々などが明らかとなってきました。

夏の日、飛鳥資料館の企画展を御覧いただき、古寺の風景にかつての伽藍の姿を思い重ねながら、古寺巡礼のひとつときをお過ごしください。

（飛鳥資料館 西田紀子）



飛鳥寺発掘調査風景